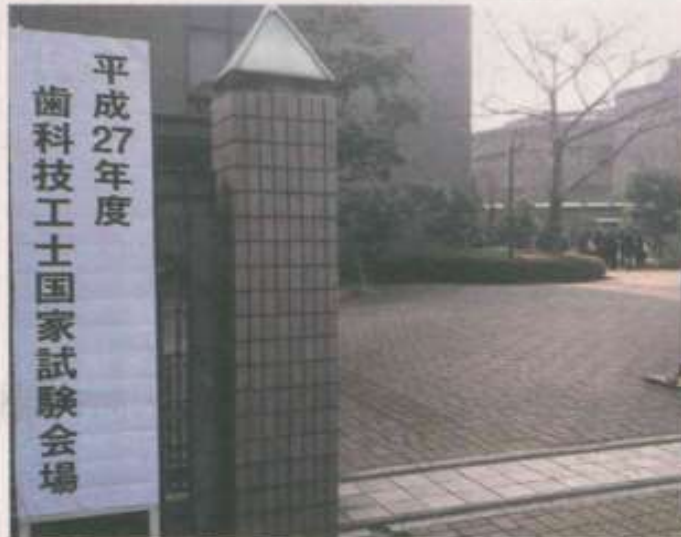


歯科技工士初の全国統一国家試験

# 全国の4会場で実施

歯科技工士の初の全国統一国家試験が2月28日、札幌、東京、大阪、福岡の4会場で実施された。受験者数も緊張感が漂っていた。



試験会場となった大阪歯科大学

試験は午前中に実地試験が行われた。医療関係職種が国試での実地試験は極めてまれだが、歯科技工士国試には技術評価のための実地試験が以前からあった。実地試験は歯の各面の線画描記、矯正線を用いての屈曲、石膏棒の歯形彫刻の3課題。午後からの学説試験は8学科目80題の出題。昭和57年の歯科技工士法改正以来、歯科技工士免許が都道府県知事免許から厚生大臣免許(当時)となった。実地試験の必要から試験は当分の間、歯科技工士養成施設の所在地の都道府県知事が行うこととされてきた。全国統一化の必要性

は平成10、11年度厚生科学研究の「歯科技工士の需給及び養成に関する研究」(渡辺嘉一主任研究者)以来、検討されてきた。24年11月から開催の「歯科専門職種の資質向上検討会」で具体的な実施内容を検討、了承され、歯科技工士法の改正法案が国会に提出され、今回の全国統一試験となった。

合格発表は3月28日午後2時に行われる。なお、合格者は直ちに指定登録機関である歯科医療振興財団で歯科技工士登録を行い、免許証の交付を受ける。

末瀬一彦全技協  
会長のコメント

全国歯科技工士教育協議会会長の末瀬一彦氏は、次のようにコメントした。

私たち協議会や業界の長年の夢、目的だった全国統一試験が実現でき、無上の喜びを感じます。これで他の医療関係職種の国試と足並みをそろえたわけですが、それ以上に意義深いのは教育のスタンダード化ができることです。歯科技工士としての必要最低限の基礎知識を全国の養成機関が共通認識をもって臨むことができ、これを向上させることで教育のレベルアップも図れます。実地試験が残ったのも大きな意義があります。歯科技工士は知識だけでなく技術力も重要です。実地試験の課題は簡素化されていますが、各養成校は国試のためだけに実習を行うのではありません。全技協も第3者評価を伴って「実技能力評価試験」を実施しています。全技協もさらに教員研修を強化し、レベルアップを図りたいと思います。